

サジェスト機能を搭載

EMシステムズ「MAPs for PHARMACY」

EMシステムズの電子薬歴・レセコン一体クラウド型薬局向け業務支援システム「MAPs for PHARMACY」は、最新の機械学習を活用したサジェスト機能を搭載している。システム側から薬剤師に対して様々な提案を行い、業務の効率化や質向上を支援することが特徴だ。

サジェスト機能の一つ目が、処方箋情報を解析し病名を推論する機能。処方箋には病名が記載されておらず、薬剤師は多くの場合、経験をもとに患者の受診目的を推測するしかない。同システムでは、これまで蓄積したデータと処方箋に記載された情報から病名を推論し、該当する割合も含めて病名候補を提案することによって、薬剤師による患者病名の推測をサポートする。

二つ目が服薬指導文章サジェスト機能。日本大学薬学部薬学研究所との共同研究により、服薬指導文章例約19万

件をデータベースとして整備した。システムに入力された患者情報、処方箋情報等を解析し、患者に適した服薬指導文章例をデータベースの中からサジェストする。

SOAP形式での薬歴記入時に、AとPの指導文章内容を同システムが提案し、服薬指導業務をサポートする機能もある。薬剤師が入力した指導内容と合わせて、選択したサジェスト文章を薬歴に反映できるため、薬歴作成時間の短縮が期待できる。

そのほか、業務負担軽減や健康サポート薬局の機能発揮に役立つ様々な新機能を搭載した。

2020年9月1日から、薬機法の改正により義務化がスタートした患者服用期間中のフォローアップへの対応機能を搭載。リストアップされた患者ごとの継続的な服薬状況の把握や指導、薬歴への記載を支援する。また、今年

からスタートするオンライン資格確認にも対応しており、連動を行うことで患者登録作業を軽減できる。

電子薬歴画面から薬剤師は、医師12万人の口コミサイト(ヤクメド)内にある

薬剤評価掲示板を閲覧できる。医師が臨床現場で経験した医薬品の効果や副作用などの情報や薬剤師が経験した調剤事例等を掲示板で共有することで医師や他の薬剤師の考えを知り、経験値を上げることができる。疾患別の栄養・食事指導レシピを画面に表示したり印刷したりして患者に提供する機能や、デジタル化された患者向け指導箋を印刷し提供する機能も備えている。

このほか、複数メーカーのレセコンを使用しているチェーン薬局の様々な



データを取り込んで一元管理できる本部システムや在庫管理システムを、オプションとしてリリースする。

MAPs for PHARMACYは、医科や調剤、介護、福祉分野における共通情報システム基盤「MAPsシリーズ」の薬局向けシステム。レセプト請求や窓口計算などマスタ部分を共通化することで効率的な開発が実現し、安価なシステムの提供が可能になった。「MAPsシリーズ」間でのシステム同士の情報連携も容易になっている。

LINE活用の患者フォローも

ユニケソフトウェアリサーチ「P-CUBE n」

ユニケソフトウェアリサーチは、「薬剤師による対話をサポートし、患者さまの『物語』に寄り添う医療の実現を目指す」をコンセプトとした電子薬歴レセコン一体型システム「P-CUBE n」を3月に新発売した。

同社では、薬剤師の対人業務による医療の質を確保するために、薬剤師の業務効率を向上させることが急務であると、7年続いた電子薬歴システムの刷新を行った。

従来では、監査や服薬指導・薬歴入力の各業務において複数の画面を遷移しなければならなかったが、開発に当たり実際の業務運用の流れを抜本的に見直し、必要な情報を一つの画面に集約させて、1クリック単位での省力化を実現させた。薬歴の視認性も高まり、使いやすくなったと好評を得ている。

薬歴の入力支援機能も充実させた。

電子薬歴に記録された基礎情報(頭書き)や過去処方との比較から薬歴の「S」や「O」情報の転送入力や、標準搭載の服薬指導ガイダンスを用いて患者に適した薬剤ごとの服薬指導と薬歴入力を、患者に行った確認や処方薬の説明の際に、1クリックで薬歴入力へと反映させることができる。そのため、薬剤師は薬歴入力だけでなく、患者への聞き取りやアセスメントに、より時間をかけることができるようになった。

「P-CUBE n」では薬歴の継続性を意識した設計になっている。前回薬歴でOP(Observation Plan)で記録された内容があれば、次に指導する薬剤師に対して確認を行うための「気付き」を促す。確認の結果、完了・継続の状態を選択することで、その内容が薬歴に転送されるため、結果として、今まで以上に薬歴の継続性を意識した

服薬指導・薬歴入力を行えるようになる。

薬剤師と患者をつなぐ新たなツールとして、LINEを使った患者フォロー機能を「P-CUBE n」に標準搭載した。

電子薬歴本来の役割であった服薬指導・薬歴入力に加えて、服用後のフォローアップ機能を持たせることで、新しい患者とのコミュニケーションを生み出し、薬剤師の職能を最大限に発揮することを支援する。

年代問わず広く利用されているLINEを活用することで、サービス開始に当たった薬剤師・患者双方の負担を軽減させ、服薬フォローの継続性も高めることができる。

さらに、電子薬歴と連携しているこ



とで、処方内容や患者の状態から最適なフォローコンテンツを選択。自動応答機能により、アドヒアランスや副作用の確認から指導までを負担なく行うことができ、フォロー内容を同時にテキストで記録することができる。

このフォローアップ機能は標準搭載であるため、スタートアップの費用がかからない。フォロー実績が少なくても、LINEを使った服薬フォローを積極的に患者に勧めることから始めることができ、薬剤師が着実に実績を積み上げてほしいと同社は提案する。

第54回日本薬剤師会学術大会

(順不同)

立命館大学 薬学部

〒525-8577
滋賀県草津市野路東一丁目一
電話 〇七七(五六一)二五六三

新潟薬科大学

〒956-8603
新潟市秋葉区東島二六五一
電話 〇二五〇(二五)五〇〇番

湘南医療大学 薬学部

〒244-0806
横浜市戸塚区上品濃一六四八
電話 〇四五(八二二)〇一一番

横浜薬科大学

〒245-0066
神奈川県横浜市戸塚区俣野町六〇一
電話 〇四五(八五九)一三〇〇

明治薬科大学

〒204-8588
東京都清瀬市野塩二一五二二一
電話 〇四二(四九五)八六一番(代)

武蔵野大学 薬学部

〒202-8585
東京都西東京市新町一―一二〇
電話 〇四二(四六八)三三五〇番

東京理科大学 薬学部

〒278-8510
野田市山崎二六四一
電話 〇四(七一二四)一五〇一(代表)

東京薬科大学 薬学部

〒192-0392
東京都八王子市堀之内一四三二一
電話 〇四二(六七六)五一一番(代)